

体験者証言：米ジャーナリストが語るウクライナ紛争、西側のウソ、ロシアが無敵である根拠

September 16, 2024

Sputnik/ Infowars

彼がロシアのドネツク共和国（DPR）に到着したとき、アメリカのジャーナリスト Tofurious Maximus Crane と、他の戦争報道記者たちは、ある田舎のカフェで、ウクライナ軍の砲火を浴びた。

「我々がレストランに坐って食事をしていると、迫撃砲の攻撃があり、人々は避難した。そのあと砲撃が終わると、彼らはすぐ戻ってきて昼食を続けた。これは私にとって度肝を抜かれる経験だった。なぜなら、あらゆる人々が平気で、恐怖の中で生活しているように思えたからだ」と、クレインはスプートニクに語った。

米ジャーナリストが、ロシアと西側のメディアの違いを比べる。

「極端に欺瞞に満ちた」西側の新聞とは逆に、ロシアのメディアは、「それが本当かウソかを見極めるために、真剣に情報のチェックをする」と、このロシアへやってきた、独立米ジャーナリスト・ブロガーは言った…

——Sputnik, September 15, 2024

クレインによると、このレストランの出来事は、あらゆる人がいかに柔軟で不屈であるかを示すものだという。彼は、ドネツクとルガンスク人民共和国、その他のロシア領土を旅行して回ったが、最も感動したことは、ここに住む人々の高い士気と愛国精神だった。

「私は、いかに彼らが愛国者であるかに感動する」と彼は言った。「国旗があらゆる所にあるのはそれを表わす、それはきわめて心の温かくなるものだ。これは西側のメディアの実情とは、全く比較にならない。誰でも知っている通り、西側のメディアは、そのような事実を全く報道しない。」

アメリカの主流メディアは、いまだに、ウクライナのネオ・ナチについて、口を閉ざしたままであり、ドンバスの国民投票 (referendum) の意味を軽視するか、全く無視している。そして現在起こっている紛争は、ロシアによる侵略であって、(ウクライナ側の) 挑発した

ものではない (unprovoked)、だからロシア人がそこにいる権利はないのだ、と米メディアは言っている (—このジャーナリストによれば)。

「特別軍事作戦」が始まったときの勢いで、ロシアのメディアは、Sputnik や RT を含めて、EU では禁止され、アメリカの社会メディアでは「不正情報」disinformation としてラベルを貼られた。9月4日に、アメリカは「ロシア・セゴドニヤ」メディア・グループに対する制裁を上乗せした。クレインは、ロシアのメディアが、どんな虚報をも流し場面を見たことがないと言った。これと対照的に、西側の新聞は常に、確認の取れない、出所不明のソースを引用している。

「西側のメディア (日本も含めて) がやっているのは、操作と騙しだけなのだ」と、彼は言った。

西側は、ナポレオンやナチスの敗北から、教訓を学んだことがない

モスクワに滞在中に、クレインは、ロシア防衛省主催の展示会に出席した。そこで見たのは、Poklonnaya Hill で行われた、特殊軍事作戦での、ウクライナ正規軍から捕獲した NATO の兵器や装備の見世物だった。

「私が展示会に出席したとき、それは皮肉だった。なぜなら、その展示場は、ナポレオンがこの都市のキーを待っていた場所だった。」クレインは言った、「私にとって、それは二重に滑稽な場所だった。そこでは、西側がロシアを取ろうとした前回 (二次大戦) と、同じことが起こったと言っているでしょう。同じ場面が見えたのです。そしてその同じ丘の下には、西側から奪った多くの車両があるのです。だから二次大戦と同じようなことが今起こっている。」

西側は、フランス (ナポレオン) とナチス・ドイツによる、それぞれ 1812 年と 1941 年のロシア侵略の教訓を学んでいない、とクレインは言う。フランスとナチスはまた、自分たちは無敵であり、ロシアを奪うことができるとも考えた、と彼は言う。歴史は自らを繰り返しつつある。そして今、NATO に訓練されたウクライナ軍と西側の傭兵たちは、特殊軍事作戦によって壊滅しつつある。自慢していたアメリカ製のエイブラムズ・タンクは、ロシア軍によって破壊され、ポクロンナヤの丘で見世物になり、西側の傲慢と莫大なカネの浪費のシンボルとなっている、と、このジャーナリストは指摘した。

「私はただ笑うしかなかった。こらえて真顔を作ることさえできなかった。なぜかという、アメリカでは、エイブラムズは世界最強のタンクで、破壊することはできないと信じ

られているからだ。」彼は言った、「それはまるで、ロシアがここへ連れてくることのできる最大の妖精魔王で、我々みんなに、これを見せて笑わせるためであるかのようだった。」

「ロシアは今もなお、伝統的諸価値を大切にす最大の国家である」

今進行中の紛争は、ロシア人を、感覚を失った人間にはしなかった。そして彼らはウクライナの戦争捕虜たちを人道的に扱っている、とクレインは言い、ウクライナの捕虜たちとのインタビューに言及した。ロシア人は、もし人が本当に、自分の行った悪なる行為を悔いるならば、本気で許すことのできる人々だと、このジャーナリストは言う。彼によれば、この態度は、多くのロシア人が共有する、伝統的なロシア正教の価値から生じたものだ。

「ロシアは、今も伝統的価値を大切にす最大の国家です。この伝統的価値は現実に働くのです」と、彼は言った。「そしてアメリカとヨーロッパでは——人々は伝統的価値を拒否したのです。これは現在の彼らの経済を見ればわかる。彼らの人民を見ればわかる。通りにあふれるホームレスの人々を見ればわかる。麻薬常用者たちの数を見てください。現在の西側では、人々は道徳的価値を拒否している。そして我々は今、西側の社会層に膨大な没落を見ている。」

ロシアは、アメリカとヨーロッパの保守派にとって、「希望の灯火」であり「命のボート」だとこの識者は続けて言い、彼らがいつか、ロシアに定住することを希望した。

しかしそれだけではない。このロシア生まれのジャーナリストは、ロシア正教への特別な霊的繋がりを感じている。

「私は前から、ロシアへ来て祈るという希望をもっていて、ロシア正教徒として、洗礼を受けたいと思っていました。その理由は、西側は圧倒的にアンチ・クリスチャンだからです」と、彼は言った。「私はロシア正教に改宗しました。」

クレインによると、正教への興味は、西側の保守派の間に起こってきたのは、彼らの政府が、ネオ・リベラルや、時には公然と「サタン教」のアジェンダを、こっそり売り歩いている (peddle) からだという。

ロシアは大きく、多様で、探検に値する

クレインはロシアにとどまり、ロシア市民権を取る計画をしている。彼はまた、他の外国人にもこの国へ移住する方法を教えている。

「私は現に TikTok、インスタグラム、ユーチューブによって、またそこへの移住の仕方を聞いてくる人々からの、「ロシア移民ウェブサイト」によって、一日に 600 から 1,000 のメッセージを受けている」と彼は言った。

ウラジミール・プーチン大統領は、8月19日、法令に署名し、ロシアの霊的・道徳的な価値に賛同する外国人、また西側の破壊的な、ネオ・リベラルな理想から逃れようとする人々に対し、この国での一時的な居住許可を与えた。

「私にとってこの法令は、私の家族や子どもたちも含め、私の人生で起こった最善のものです」と彼は言う。「私は実は、床屋で髪を刈っていたとき、この法令についての通知を受けて取り、椅子から飛びあがって、これを叫んだのです。それほど私はこのことに興奮していました。」

クレインは、ロシアという地球上で一番大きい国を、探検しようと楽しみにしている。「見学しようと思っているロシアはたくさん残っている。私は少し触れただけで、私の知っている町や都市は2%ぐらいだろう」と、このジャーナリストは言った。「ロシアに住んでいる非常に多様な人種がいます。… 昨夜はアイルランド人がいた。インドから来た人、メキシコから来た人もいる。私の友人の一人はアルゼンチンの出身であり、イタリア人もメキシコ人もいる。」

多くのアメリカ人は、ロシアがどれくらい大きく、美しく、多様性を持っているかを知らない、とクレインは言い、彼の次の使命はこの国を広く歩き回り、世界の残りの人々に、それがどんなものかを示すことだと付け加えた。

* 過激な内容のため、ロシアでは禁止される

[訳者 Greatchain による解説]

この記事がロシアで禁止(ban)された理由はよく分からないが、Crane のロシア支持の活動が、ちょっと度を越したためではないだろうか。この記事はアレックス・ジョーンズの Infowars によるものだが、いつものように原語テキストは添えられなかった。

これは、戦争の起こっているウクライナからの、米ジャーナリストの発言内容を、ロシアの報道機関 Sputnik がまとめたものである。このような戦闘中の現地からの報道記事は、わかりやすく価値の高いもので、私の訳したものだけでも、かなりの数になる。

しかし、日本政府（少なくとも自民党）や、それを支持する主流報道機関は、全くこれを見做すどころか、逆の立場を取り、私の翻訳紹介したものを（ここで言っている）disinformation＝不正情報として扱っている。つまり不正な犯罪的情報ということになる。だから、この記事の主張――**正確を期するロシア報道に対する、西側のフェイク報道**――から見れば、ロシア報道を好んで紹介する私は、犯罪者である。バイデンだけを認めるわが国の立場は、西側以上に西側であり、西側の模範生と言ってもよい。

私は喧嘩を売っているのではない。誰にせよ、このような正直な記事を、もっと勉強して、よく読むようにすべきだと言っているのである。顕著な例で言えば、プーチン大統領と米ジャーナリスト、タッカー・カーソンによる貴重なインタビューを、批判したければ批判すればよいのであって、無視する手はないではないか？ また、「ノルド・ストリーム」パイプライン爆破事件の判断を、「バイデンに任せる」手はないではないか？ こういうことがいかに恥ずかしいことを、この記事から学ぶべきである。

そして、ここで言っている「伝統的諸価値」すなわち霊的・宗教的・道徳的な価値を見做す文化は滅びるといふ、（現在のところは）ロシアを中心とする考え方を、もっと真剣に取り入れるべきである――真剣にわが国を護るつもりなら。この時代に霊的とか道徳的などと、馬鹿げたことを相手にするつもりはないという人があるとすれば、それ自体が洗脳の罠だと考えよ。

それとも、ロシアは宗教的だから頭がおかしくなり、宗教を公然と迫害するウクライナは、正義の味方なのか？ 少し前、ある新聞が好んで引用するアメリカの評論家に、J.N. という名の人があった。この人は、ロシア人というのは呆れるほど知能の低い者たちなのだといふ、持論を展開する人だった。このような新聞は喜んで読むが、考えることを全く拒否する人々がいる。国を指導する政治家の中にも、そういう人たちがいると考えざるを得ない。

参考：「自決のすすめ」 <https://www.dcsociety.org/2012/info2012/221223.pdf>